

たまねぎレポート【第373号】



平成30年11月27日

阪南青果株式会社

社内報

10月の天候は、北日本では気温がかなり高く、沖縄・奄美ではかなり低かった。降水量は、東・西日本の太平洋側で少なかった。北海道地方と沖縄・奄美で多かった。11月に入り、月前半は比較的温暖な日が多く、後半は平年並みの日が多い。札幌の初雪は平年より23日、昨年より28日遅かった。

気象庁が発表した12～2月の3か月予報では、この期間の平均気温は、東日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。降水量は、東日本の日本海側で平年並みまたは少ない確率ともに40%、沖縄・奄美で平年並みまたは多い確率ともに40%。降雪量は、東日本の日本海側で平年並みまたは少ない確率ともに40%、西日本の日本海側で少ない確率50%。月別予報は次の通り。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に

曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

主要(市場)の動き

野菜の概況

10月の建値市場の野菜の入荷は、253,073トン前年比97%で、多くの品目で回復傾向となったものの、平均価格は市場別に多少のバラツキが見られるものの、前年比134～118%で高値定着傾向となっている。市場別に入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷量は前年比103%、平均単価はkg¥167で前年比118%。東京市場は前年比96%の入荷量で、平均単価はkg¥264前年比131%。名古屋市場は前年比100%の入荷量で、平均単価はkg¥234前年比126%。大阪本場は前年比98%の入荷量で、平均単価はkg¥258前年比134%。福岡市場は前年比100%の入荷量で、平均単価はkg¥201前年比126%となっている。

建値市場の10月の玉葱販売量は、28,995トン前年比99%で、札幌・名古屋市場以外は前月に続き減少傾向であった。平均単価はいずれの市場も前年比141～107%で堅調に推移した。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は前年比114%で、平均単価はkg¥82前年比134%。東京市場

の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥ 101前年比132%。名古屋市場の販売量は前年比109%、平均単価はkg ¥ 90前年比125%。大阪本場の販売量は前年比97%、平均単価はkg ¥ 106で前年比141%。福岡市場の販売量は前年比71%、平均単価はkg ¥ 99前年比107%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の10月の主要野菜14品目の販売量は、122, 137トン前年比2%増(前月比19%増)、平均単価はkg ¥ 144前年比33%高(前月比12%安)となっている。販売量が前年比増の品目は、タマネギの22%増を始め、ダイコンが6%増、キャベツ、キュウリが3%増など4品目。前年比減の品目は、ナスの27%減を始め、ハウレンソウが19%減、ピーマンが15%減など8品目。価格は14品目総てが前年比高となっている。特に、ニンジンがkg ¥ 170で前年比139%高、ピーマンがkg ¥ 460で77%高、ハクサイがkg ¥ 88で73%高など。タマネギはkg ¥ 77で前年比17%高となっている。

東京都中央卸売市場の10月の野菜の入荷は、134, 292トン前年比96%(前月比111%)、平均単価はkg ¥ 264前年比131%(前月比94%)で、高値で推移したが、旬別では上旬がkg ¥ 271(前年比141%)、中旬がkg ¥ 258(同142%)、下旬がkg ¥ 263(同115%)となっている。主要15品目で入荷が前年を上回った品目は、キュウリが107%、ネギ、ピーマンが104%、生シイタケが102%など4品目。キャベツは前年比100%。前年を下回った品目は、ハウレンソウとナスが前年比84%、ニンジンが86%、レタスが91%など10品目。販売単価が前年比高であった品目は、ニンジンがkg ¥ 213で前年比242%、ハクサイがkg ¥ 102で186%、レタスがkg ¥ 205で168%など14品目。前年比安の品目は、ナマシイタケがkg ¥ 989で前年比95%の1品目だけとなっている。

東京都中央卸売市場の10月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	134,292	96.1	110.7	264	131.3	73.6
た ま ね ぎ	10,302	96.4	109.1	101	132.2	93.5
キ ャ ベ ツ	18,240	100.0	108.4	87	154.7	111.5
は く さ い	17,065	96.4	157.0	102	185.6	91.9
だ い こ ん	12,365	99.3	121.2	98	128.1	84.5
レ タ ス	7,879	90.5	94.3	205	167.8	104.1
に ん じ ん	7,809	86.2	127.0	213	242.0	116.4
ト マ ト	5,819	93.9	89.9	485	121.7	97.0
き ゆ う り	5,788	106.6	86.1	403	121.2	102.0
ば れ い し ょ	6,822	91.7	107.8	117	120.5	91.4
ね ぎ	5,322	104.2	129.4	410	118.2	95.6
か ぼ ち ゃ	3,048	84.9	116.0	241	179.0	94.9
れ ん こ ん	914	107.0	111.9	412	85.2	87.9
な が い も	768	99.4	87.3	396	106.9	96.6
に ん に く	252	108.2	105.0	934	91.9	98.8

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の10月の玉葱の入荷量は、10,302トン前年比96%（前月比109%）で少なめであった。主力の北海物は、ホクレンが生産出荷量を下方修正したこと等で、入荷量は9,726トン前年比95%、占有率94%で前年比2ポイントダウン。中国物は、466トンの入荷で前年比128%、占有率5%で前年比2ポイントアップ。兵庫物は、81トンの入荷で前年比103%、占有

率1%で前年と同じ。月平均価格はkg¥101前年比132%(前月比94%)で、総じては高値悩みで、需要は凡調で弱含みの市況であった。産地別の平均価格は、北海物がkg¥102前年比134%。兵庫物はkg¥152前年比109%。中国物はkg¥84前年比116%となっている。

11月に入り、北海物の入荷は減少傾向となったが、荷動きは鈍く需給は均衡状態からやや余り気味で、相場はL大の高値¥2,000、安値¥1,800で、優良銘柄以外は安値が多く、産地希望値の¥2,000キープは厳しい状態であった。品薄高が続いていた主要野菜が、10月の好適な天候に恵まれ、生育が順調に回復し、出回り増から多くの品目が軟調に転じたことも、荷動きに影響したと思われる。他方、北海道産地では、生産・出荷量の下方修正で、強気ムードが増幅された。出荷の抑制と、産地からの値上げ誘導が強まり、中旬の相場は¥100～¥200高と値上がりした。また、L大とLの価格差が縮小したことで、買参人の注文はL大中心に移行した。市場関係者の多くは、前月までのホクレン情報では、球肥大が良好で、当面前年並みの出回り量になると聞いていたのに、急な減少は何故かと疑念を抱いていた。月後半も入荷は、減少傾向が続き、品薄高となっている。今週も北海物の入荷は相変わらず少なく、市況はL大¥2,300～2,200、L¥2,200～2,100に値上がりしている。買手筋にも品薄高が認識されて、荷動きは回復歩調になっている。佐賀のセット栽培(冬採り)が少量入荷しているが、高値ながら品質良好で好評である。上旬の玉葱の入荷は前年比82%(〃北海82%)、中旬は前年比91%(〃北海91%)。平均単価は上旬がkg¥104(北海¥105)、中旬がkg¥108(北海¥108)で、上・中旬ともに前年比3割高となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の10月の玉葱の販売量は、6,885トン前年比109%(前月比137%)で、前年比、前月比ともに大幅増であった。主力は北海物で販売量は、6,585トン前年比105%、占有率は96%で前年比3ポイントア

アップ。愛媛物の販売量は212トン前年販売はなし、占有率は3%。兵庫物の販売量は61トン前年比287%、占有率は1%で前年比同じ。平均単価はkg ¥90前年比125%(前月比91%)。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥91前年比128%。愛媛物はkg ¥58、前年販売はなし。兵庫物はkg ¥141前年比71%となっている。

11月に入り、北海物の入荷は減少傾向が続き、ランニングストックも底を突き、ホクレンの思惑通りの値上げ相場となっている。産地主導の販売態勢が強まり、此の先相場は一段高となる気配。兵庫の冷蔵物は、こだわり筋の注文に応じて、出荷を要請しているが、指値が高過ぎて注文は減少傾向にある。今週も北海物は品薄状態で、不足分を転送品で補充しているが、間に合っていない。12月の年末需要期の手当てに頭を痛めている。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の10月の玉葱の販売量は、3,598トン前年比97%(前月比100%)で、北海産がホクレンの生産出荷量の下方修正等で、最盛期に拘わらず入荷が減少傾向となった。収穫遅れと地震や台風により出荷が中断したことで、直送品の入荷が少なかった。他方、兵庫の冷蔵物は、堅調市況を反映して、出荷が順調で入荷は前年を上回った。北海物の販売量は2,857トン前年比93%、占有率は79%前年比4ポイントダウン。兵庫物は691トンの販売量で前年比115%、占有率は19%前年比3ポイントアップ。佐賀物は43トンの入荷で前年はなし、占有率は1%。平均単価はkg ¥106前年比142%で、引き続き堅調に推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥98前年比142%。兵庫物がkg ¥140前年比131%。佐賀物がkg ¥84となっている。

11月に入り、引き合いは弱く荷動きは今一つであったが、荷受けサイドでは産地事情から先高を見越して、販売量を絞りながら安売りを自重した。売り残しの発生で在庫増となったが、焦らずに値上がり待ちの販売を維持した。上旬の

販売量は前年比130%となったが、中旬は前年比80%に減少し、相場は¥200~100上昇し、¥2,000以下はなくなった。荷受けの強気販売で、下旬には荷動きはやや鈍化した。亦、球流れは小振り傾向でL大の比率が低下し、L大が品不足となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の10月の玉葱の販売量は、2,810トン前年比71%（前月比129%）で、引き続き前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売量は2,365トン前年比83%、占有率は84%で前年比12ポイントアップ。中国物は271トン前年比160%、占有率は10%で前年比5ポイントアップ。佐賀物は65トン前年比106%、占有率は2%で前年と変わらず。平均単価はkg¥99前年比106%（前月比82%）で、軟調に推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥99前年比122%。佐賀物はkg¥121前年比125%。中国物はkg¥74前年比97%。となっている。

11月に入り、北海物の入荷は減少傾向が続いたが、ホクレンの指値販売を続けると、Lは捌けるがL大に売れ残り出て在庫増となった。月半ばからは北海物の入荷は日々減少し、入荷減を反映して引き合いが強まり、品薄高が続いている。転送物を調達し品不足を補充したが、現在はL大が品不足となっている。福岡市場は11月の入荷は予想外に少なく、11月1日~20日の玉葱の販売量は、前年比48%、平均単価はkg¥103前年比103%となっている。

11月26日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷496トン、強い

北 海 20kgDB2L ¥2,200~ L大 ¥2,200~2,100、 L ¥2,200~2,100、
M 入荷なし

北 海 20kgNT2L ¥2,000~1,900、 L大 ¥2,000~1,900、 L ¥2,000~1,800
M ¥1,600~1,500。

【太田市場】 入荷229トン、強い

北 海 20kgDB2L ¥2,200~2,100、L大 ¥2,300~2,200、L ¥2,200~2,100、
M ¥1,700~1,600。

佐 賀 5kgDB2L ¥1,300~1,200、L ¥1,500~1,400、M ¥1,300~1,200。
(冬採り、セット栽培)

【名古屋北部】 入荷256トン、弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200~2,100、L大 ¥2,300~2,200、L ¥2,200~2,100、
M ¥1,800~1,700。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,500~1,400、L ¥1,600~1,500、M ¥1,500~1,400。

【大阪本場】 入荷140トン、弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,200~2,100、L大 ¥2,300~2,200、L ¥2,300~2,200、
M ¥1,800~1,700。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300~1,100、L ¥1,500~1,300、M ¥1,500~1,300。

【福岡市場】 入荷180トン、弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,400~2,200、L大 ¥2,500~2,300、L ¥2,500~2,300、
M ¥2,000~1,800。

供給(産地)の動き

主力の北海物は、ホクレンの生産・出荷予想の下方修正が、強気ムードの追い風となり、出荷調整が表面化している。特に、加工・業務向けの供給が昨年へ続き減量となることで、加工筋で原料が逼迫している。昨今の市場出荷は下方修正値を上回る減量となっており、品薄高市況を反映した先高ムードの浸透で、産地相場は日々上昇している。

冷蔵物の主力産地である淡路島では、9~10月の出荷は高値市況を反映して、前進化傾向であったが、11月に入って北海産地の生産・出荷の下方修正情報を受けて、出荷に先送り傾向が見受けられ、日量出荷は前年をやや下回っている。

品質的には前年に比べやや見劣りし、商品化率は前年を下回っている。香川、愛媛も北海物の値上がり市況から、様子眺めの出荷となっている。佐賀では市場出荷は終了している。

輸入物は、北海物の原料向けが昨年に続き減量となったことで、増加傾向にあり、10月は前年比5,000トン増となっているが、今後も前年を上回る入荷が続くと予想される。年内は中国とアメリカが増え、年明けは中国・ニュージーランド・オーストラリヤが増えるとしている。

北海道産地

生産者段階では粗選がほぼ終了し、冬場を迎え倉入れ最盛期だが、ロス率は平年より高いと言う生産者が多い。特に、上川、空知地区の減収率が高い。全道的に収量減を実感している生産者が多く、先高期待感が強まっている。強気を反映して、地場市場への個人出荷は減少傾向が続き、出荷は後ズレしている。札幌市場では入荷減から割高市況が続き、個選物が20kg ¥2,000相場となり、総じて高値期待感が強まっている。産地相場も値上がりし、鉄コン1基(L大、L) ¥12万~11万と近年にない高値水準となり、商系筋では取引を見送っている。ロス率を勘案すると、現状の市況水準では採算割れになり、取引は進んでいない。今年は収穫時の天候不順で、病害の発生率が高いことや、球締りにもやや難があり、平年に比べるとロス率が高く、長期貯蔵の品質管理が懸念されている。今年、降雪が遅く、根雪が遅れることも貯蔵に影響する。

府県産地

冷蔵物の主力産地である淡路島では、11月に入って北海産地の生産・出荷の下方修正情報を受けて、出荷は減少傾向にある。JAを始め商系の多くは、3月中旬までの出荷量を開市日数に割り振り、計画出荷を決め込んでいるため、週間出荷量は定量化している。市況眺めの出荷形態の商社のなかには、北海物の減量を過大視して、出荷を控えている処もある。今年の冷蔵物には、鱗片腐敗や黒煤の発生が散見され、品質的には前年に比べやや見劣りがする。産地では、次シーズ

ンの定植期を迎えているが、苗立ちが頗る順調で、天候に恵まれ既に早生種の定植が終了し、中晩生の定植が始まり、定植作業は平年よりも前進化している。

佐賀では、冷蔵物の市場出荷は終了し、在庫は加工原料に留まっている。既に次シーズンの定植最盛期にあるが、天候に恵まれ苗立ちが良好で、定植作業は前進化している。既に、早生マルチの定植は終了し、活着は頗る順調である。露地早生の定植に移行しているが、総じて、苗余り状態で生産者のなかには、休耕田での栽培を志向している人もある。ペト病の発生に手を焼き、種子の手当てを控え、作付減を計画していた人の中にも、苗の処理から減反縮小の動きもある。晩秋の気候が温暖で適雨に恵まれたが、他方、温暖多湿傾向で病害の早期発生が懸念されている。

長崎の極早生の作付は、前年並みで生育は順調と聞いている。

外国産地

10月の輸入は速報値で、25,016トン前年比129%(前月比100%)で増加傾向である。国別では中国が23,901トン前年比126%。アメリカが1,114トン前年比411%。インド181トン前年はなし。となっている。

中国、供給産地は前月と同様で甘肅省である。昨年、大量の注文があった韓国からの発注が少なく、価格は弱含んでいる。現在の価格は、剥き玉20kg・C&F・\$6.60~6.80の水準である。

アメリカ、日本向け主力産地のワシントン州では、貯蔵用の晩生種は、球肥大が良好で予想外の豊作型となった。産地在庫は豊富で、国内マーケットは落ち着いている。今の処、日本側からの大口の注文はない模様。現在、日本向けは50㍑・C&F・Jサイズ\$9.50(リーファーコンテナ一積)で、北海産の加工・業務向け価格と大差ない。

12月の市況見通し

北海物主力の販売が続くが、北海物の相場は出回り量の85%を占有す

るホクレンの手中にある。荷受各社には、12月¥2,500 売りを指示しており、¥2,500 を目途に出荷調整が実施されると、市況は¥2,500 に上昇する。現状の実勢市況は、¥2,300~2,200 が精一杯で、年末に需要期となる多く品目が、値下がり傾向にあり、玉葱も末端の売れ行きは芳しくない。現状の出荷状態が続けば、年末に¥100~50 の値上がりで頭打ちとなる。既に、市場関係者の一部で、在庫増の動きが見受けられ、産地関係者はもとより、市場関係者も12月の¥2,500 相場の対応に動いている。(了)